

# 友愛調査報告書「PDF活用マニュアル」 (機能ならびに操作説明書)

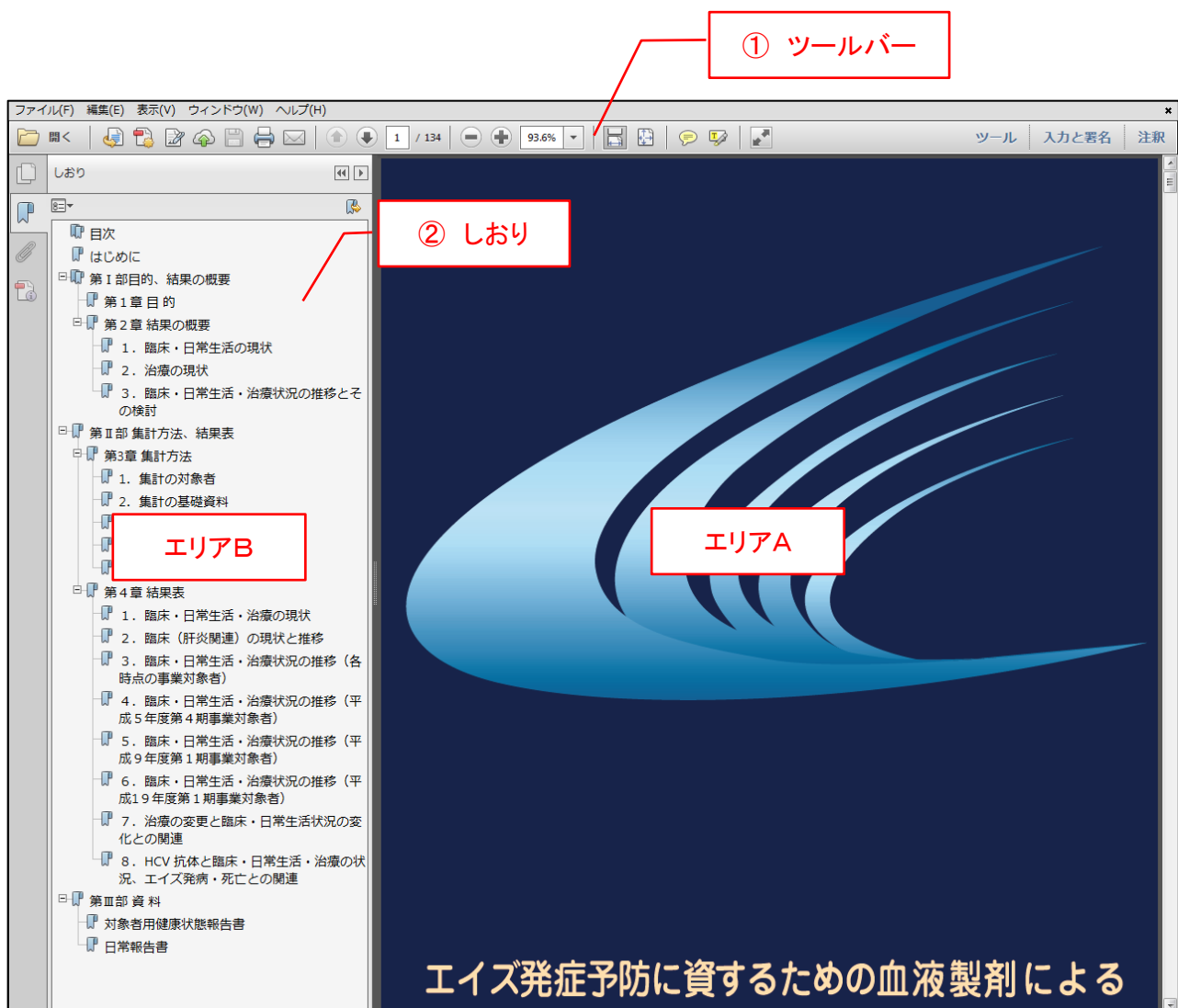
友愛報告書(正式名称：エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究)報告書のPDFデータをご利用いただくにあたって、便利な機能をご紹介します。

## (1) 表示について

PDFファイルを開くと下図のように表示されます。

代表的な機能とその操作方法をご案内申し上げます。

※一括と分割のPDFファイルがありますが、使用方法は同様です。



## ① ツールバー

全画面表示に切り替えます。(全画面表示を終了するにはEscを押します。)

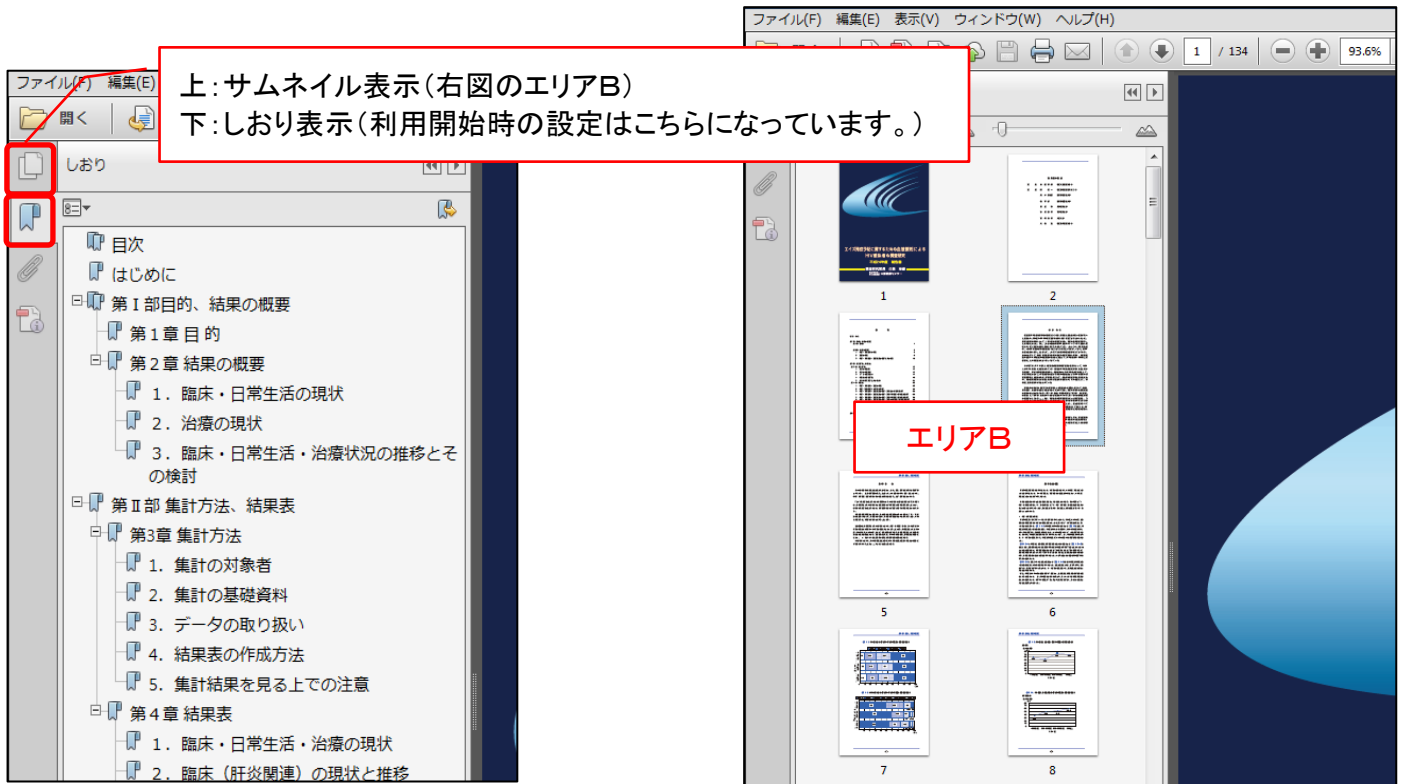


エリアAの表示サイズを変更できます。

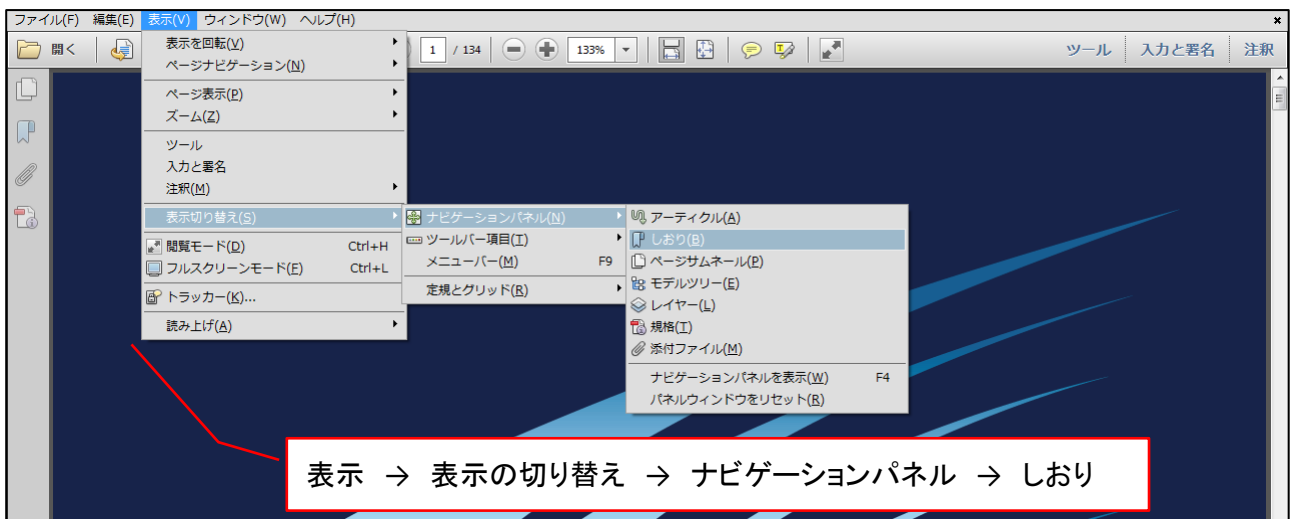
エリアAの表示サイズを横幅合わせ・縦幅合わせに切り替えられます。

## ② しおり

上:サムネイル表示(右図のエリアB)  
下:しおり表示(利用開始時の設定はこちらになっています。)



「しおり」や「サムネイル」の表示が消えてしまった場合、以下の操作で再表示できます。  
(例えば、全画面表示からEscを押すと「しおり」や「サムネイル」は消えてしまいます)



## (2) 便利な機能について

以下の機能を活用することで、より一層便利にお使いいただけます。

- ① しおり機能について
- ② 参照ページへのリンクについて
- ③ 検索機能について
- ④ 直前に表示していたページへ戻る機能について

### ① しおり機能について

ご覧になりたいページをクリックすると該当ページが表示されます。

3. データの取り扱い

第II部 集計方法、結果表

満を、検出せず、50未満と50～400未満に細分した。

抗-HIV薬の併用区分は個々の抗-HIV薬の投与状況に基づいて、投与なしと投与ありに大別した。投与なしについては、本事業の対象者になった時点から当該時点までの抗-HIV薬の投与状況により、「投与なし（投与歴なし）」と「投与なし（投与歴あり）」に区分した。投与ありについては、「NRTI1剤」、「NRTI2剤」、「NRTI2剤+PI-1剤」、「NRTI2剤+NNRTI」、「INSTI」と「その他」に区分した。「NRTI2剤+PI-1剤」とはNRTI2剤とPI1剤または2剤とした。「NRTI2剤+NNRTI」とはNRTI2剤とNNRTI1剤とした。「INSTI」とはRALを含む薬剤の組み合わせとした。なお、コンビビルなどの合剤はそれに含まれる薬剤により分類した。抗-HIV薬の服用状況は薬剤ごとに回答されているが、抗-HIV薬の併用区分別に集計する場合には該当する抗-HIV薬の最も悪い服用状況を用いた。

身体状況は食欲や疲れなどの項目からなり、5～8年度では11項目、9年度以降では13項目である。各項目は「とてもある」などから「全くない」などまでの5段階の選択肢であり、項目ごとに好ましい選択肢から順に「1」～「5」までのスコアを与えた。また、項目全体の総合スコアとして、項目全体の平均スコアを算出し、1～2未満、2～3未満、3～4未満、4～5の4カテ

※サムネイル表示でも同様。クリックした該当ページを表示します。

## ② 参照ページへのリンクについて

(i)

文中の「目次」や「参照ページ(色文字部分)」をクリックすると該当ページが表示されます。

目次

はじめに

第1部 目的、結果の概要

第1章 目的 ..... 1

第2章 結果の概要 ..... 2

1. 臨床・日常生活の現状 ..... 2

2. 治療の現状 ..... 6

3. 臨床・日常生活・治療状況の推移とその検討 ..... 10

第II部 集計方法、結果表

第3章 集計方法 ..... 17

1. 集計の対象者 ..... 17

2. 集計の基礎資料 ..... 17

3. データの取り扱い ..... 17

第II部 集計方法、結果表

第3章 集計方法

1. 集計の対象者

集計の対象者は平成5～24年度の「エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業」の対象者全員である。本事業対象者は血液製剤によるHIV感染者(二次・三次感染者を含む)であって、本事業に申請され、本事業の対象と認められた者である。5～8年度の申請はCD4値が500以下の者に制限されていたが、9年度以降はその制限がなくなっている。また、ADSを発病すると、本事業の対象から外れることになる。

表3-1-1に、事業対象者数と開始・中止状況(集計対象者)を示す。なお、第1期は4～6月、第2期は7～9月、第3期は10～12月、第4期は翌年1～3月である。5～24年度に一度でも本事業の対象になった実人数は943人である。その中で、5年度に本事業の対象となった者が48%、6年度が39%、7年度が31%、8年度が28%、9年度が27%、10年度が26%、11年度が25%、12年度が24%、13年度が23%、14年度が22%、15年度が21%、16年度が20%、17年度が19%、18年度が18%、19年度が17%、20年度が16%、21年度が15%、22年度が14%、23年度が13%、24年度が12%である。

表3-1-1に、事業対象者数と開始・中止状況(集計対象者)を示す。なお、第1期は4～6月、第2期は7～9月、第3期は10～12月、第4期は翌年1～3月である。5～24年度に一度でも本事業の対象になった実人数は943人である。その中で、5年度に本事業の対象となった者が48%、6年度が39%、7年度が31%、8年度が28%、9年度が27%、10年度が26%、11年度が25%、12年度が24%、13年度が23%、14年度が22%、15年度が21%、16年度が20%、17年度が19%、18年度が18%、19年度が17%、20年度が16%、21年度が15%、22年度が14%、23年度が13%、24年度が12%である。

(ii)

第II部 集計方法、結果表

第4章 結果表

1. 臨床・日常生活・治療の現状

本節では、以下の表を示した。

表4-1-1. 基礎疾患 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-2. 性、年齢、CD4値、CD4/CD8比とHIV-RNA量の分布 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-3. 年齢別、CD4値 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-4. 年齢別、HIV-RNA量 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-5. CD4値別、HIV-RNA量 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-6. CD4値とHIV-RNA量別、抗HIV薬の併用区分 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-7. 抗HIV薬の併用区分別、服用状況 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-8. 抗HIV薬の併用区分別、副作用 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-9. 抗HIV薬の併用薬別 (平成24年度第4期事業対象者)

表4-1-10. 抗HIV薬別、服用状況 (平成24年度第4期事業対象者)

第II部 集計方法、結果表

表4-1-1 基礎疾患 (平成24年度第4期事業対象者)

基礎疾患	人数	(%)
血液病A	387	(72.5)
血液病B	114	(21.3)
von Willebrand 病	3	(0.6)
二次感染	20	(3.7)
三次感染	2	(0.4)
その他	8	(1.5)
計	534	

表4-1-2 性、年齢、CD4値、CD4/CD8比とHIV-RNA量の分布 (平成24年度第4期事業対象者)

性別	人数	(%)	CD4/CD8 比	人数		(%)	
				人数	(%)	人数	(%)
男	507	(94.9)	0.10～未未満	1	(0.2)	100	(20.7)
				27	(5.1)	209	(43.4)
				534		117	(24.3)
女	27	(5.1)	0.10～0.50 未満	1	(3.7)	2	(7.4)
				2	(7.4)	3	(11.1)
				3	(11.1)	4	(14.8)
計	534		0.50～1.00 未満	1	(0.2)	117	(24.3)
				2	(0.4)	209	(43.4)
				3	(0.6)	117	(24.3)

(iii)

第4章 結果表

1. 臨床・日常生活・治療の現状
2. 臨床（肝炎関連）の現状と推移
3. 臨床・日常生活・治療状況の推移（各時点の事業対象者）
4. 臨床・日常生活・治療状況の推移（平成5年度第4期事業対象者）
5. 臨床・日常生活・治療状況の推移（平成9年度第1期事業対象者）
6. 臨床・日常生活・治療状況の推移（平成19年度第1期事業対象者）
7. 治療の変更と臨床・日常生活状況の変化との関連
8. HCV抗体と臨床・日常生活・治療の状況、エイズ発病・死亡との関連

第III部 資料

- 対象者用健康状態報告書
- 日常報告書

4. 結果表の作成方法

本集計は8つに大別され、その区分に合わせて「第4章 結果表」も8つの節に分かれている。それぞれの区分ごとに、以下、結果表の作成方法を示す。

(1) 臨床・日常生活・治療の現状

本集計は本事業対象者の臨床・日常生活・治療の現状把握を旨としたものである。集計対象者は24年度第4期の事業対象者534人とした。基礎資料は同時点（最新）のものとし、抗HIV薬、CD4値、HIV-FNA量が未報告の場合、第1～3期の最も新しい時点に変更した（表3-4-1）。集計対象項目は基礎疾患、性別、年齢、CD4値、CD4/CD8比、HIV-FNA量、抗HIV薬の服用状況、副作用、ニューモシスチス肺炎予防薬、眼底検査、体重、身体状況と日常生活動作のすべてを取り上げた。

基礎疾患、性別、年齢、CD4値、CD4/CD8比とHIV-FNA量の分布を示した（表4-1-1～2）。CD4値とHIV-FNA量は年齢別の分布を示した（表4-1-3～4）。HIV-FNA量はCD4値別の分布を示した（表4-1-5）。抗HIV薬の併用区分はCD4値とHIV-FNA量別に集計した（表4-1-6）。抗HIV薬の併用区分別に、服用状況、副作用と抗HIV薬を集計した（表4-1-7～9）。抗HIV薬別の服用状況と副作用を集計した（表4-1-10～11）。また、CD4値別に、ニューモシスチス肺炎予防薬と

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

28 / 134 93%

ツール 入力と署名 注釈

しおり

目次

- はじめに
- 第1部 目的、結果の概要
- 第1章 目的
- 第2章 結果の概要
- 1. 臨床・日常生活の現状
- 2. 治療の現状
- 3. 臨床・日常生活・治療状況の推移とその検討
- 第2部 集計方法、結果表
- 第3章 集計方法
- 1. 集計の対象者
- 2. 集計の基礎資料
- 3. データの取り扱い
- 4. 結果表の作成方法
- 5. 集計結果を見る上での注意

第II部 集計方法、結果表

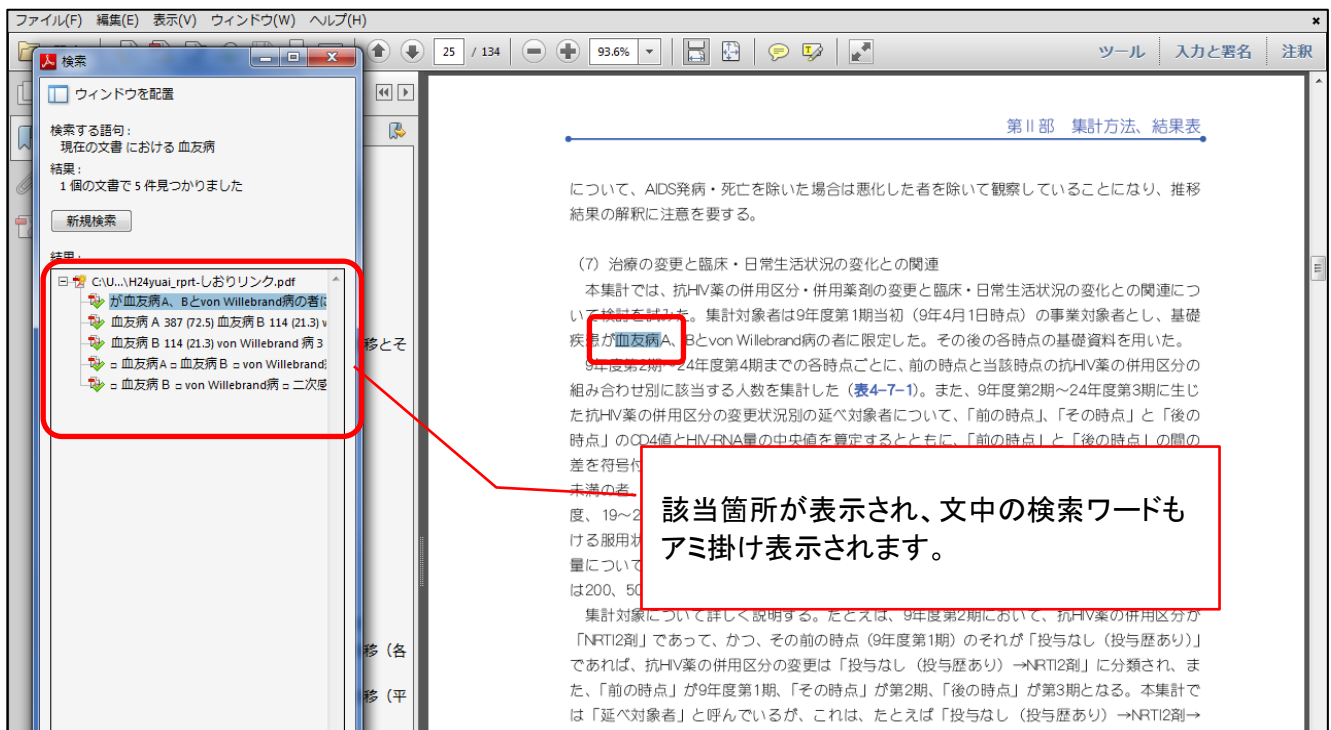
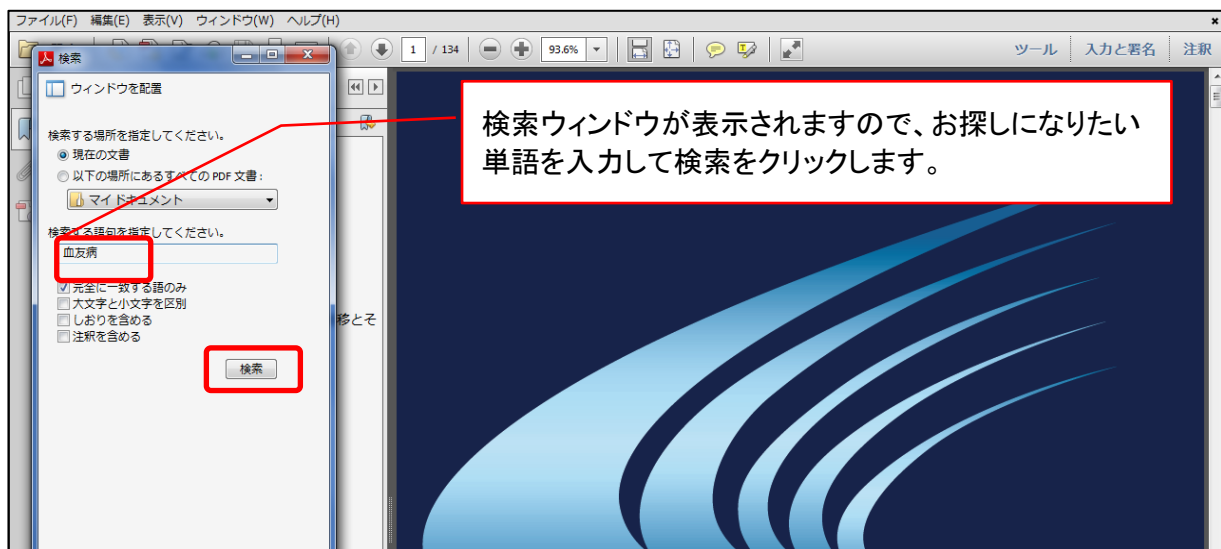
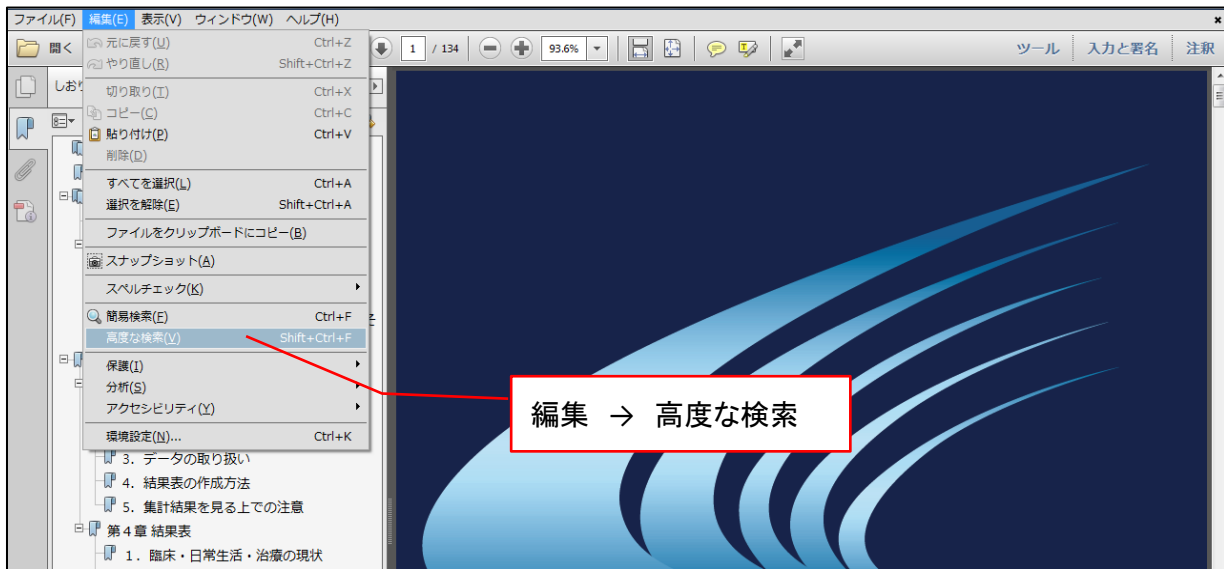
表3-4-1. 臨床・日常生活・治療の現状の平成23年度集計における基礎資料の時点

基礎資料の報告状況	集計に用いた時点					計
	第1期	第2期	第3期	第4期	なし	
1. 抗HIV薬、CD4値、HIV-FNA量の報告あり	2	6	75	430	—	513
2. 抗HIV薬、CD4値の報告あり	0	1	0	5	—	6
3. 抗HIV薬、HIV-FNA量の報告あり	0	0	2	8	—	10
4. 抗HIV薬の報告あり	0	0	0	0	—	0
5. CD4値、HIV-FNA量の報告あり	0	0	0	1	—	1
6. CD4値の報告あり	0	0	0	0	—	0
7. HIV-FNA量の報告あり	0	0	0	0	—	0
8. 抗HIV薬、CD4値、HIV-FNA量以外の報告あり	0	0	0	1	—	1
9. データなし	—	—	—	—	3	3
計	2	7	77	445	3	534

(i)～(iii)のように、ご覧になりたいページや参照をクリックすると該当ページが表示されます。

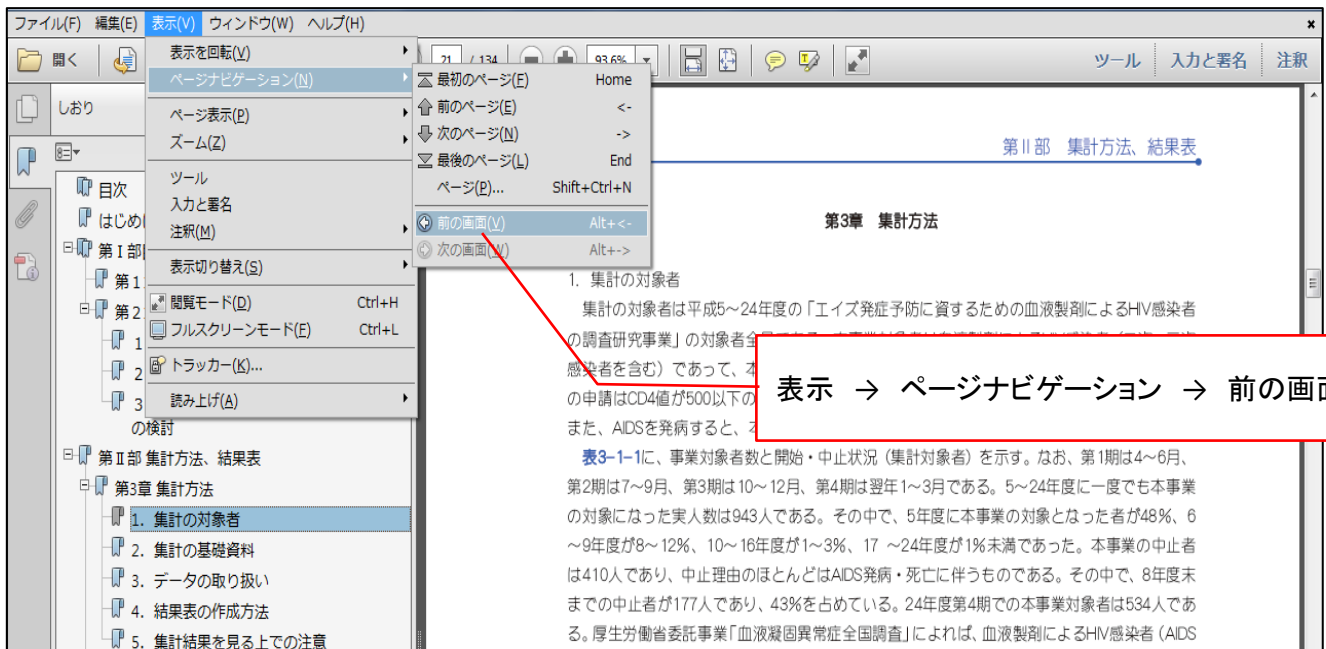
### ③ 検索機能について

お探しになりたい単語が記載されているページを検索することができます。

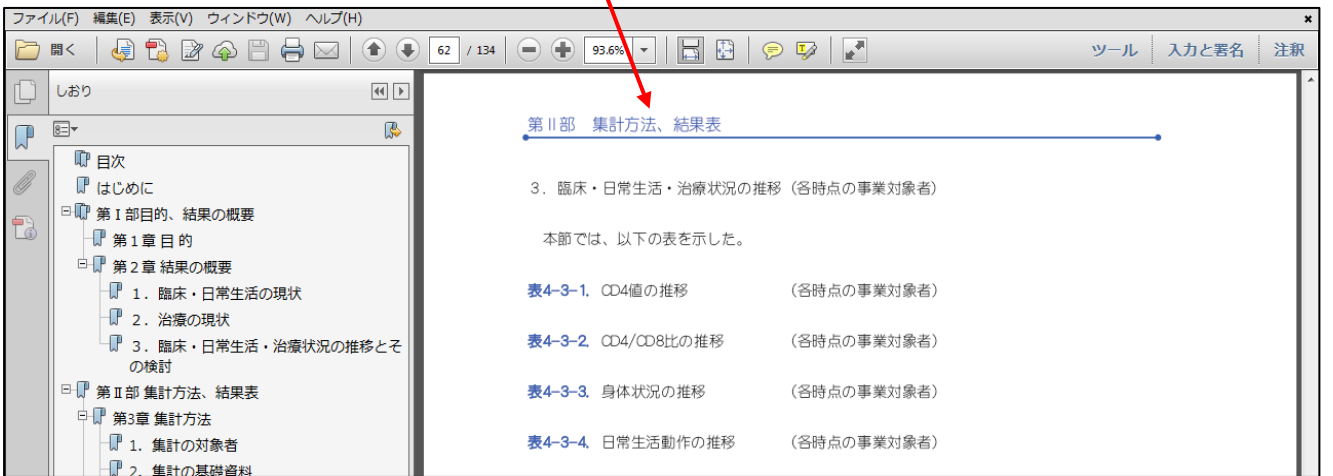
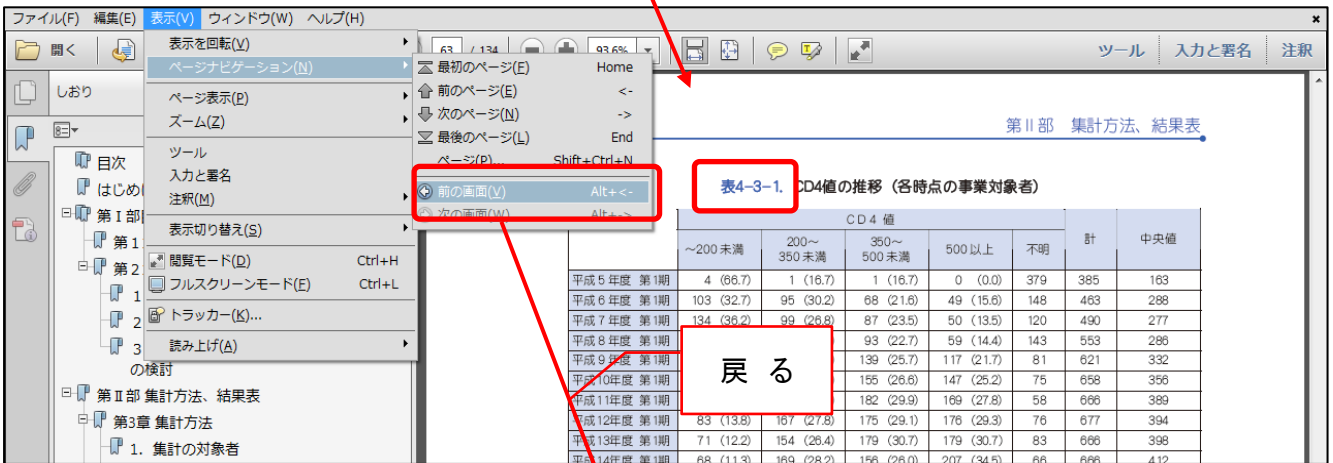
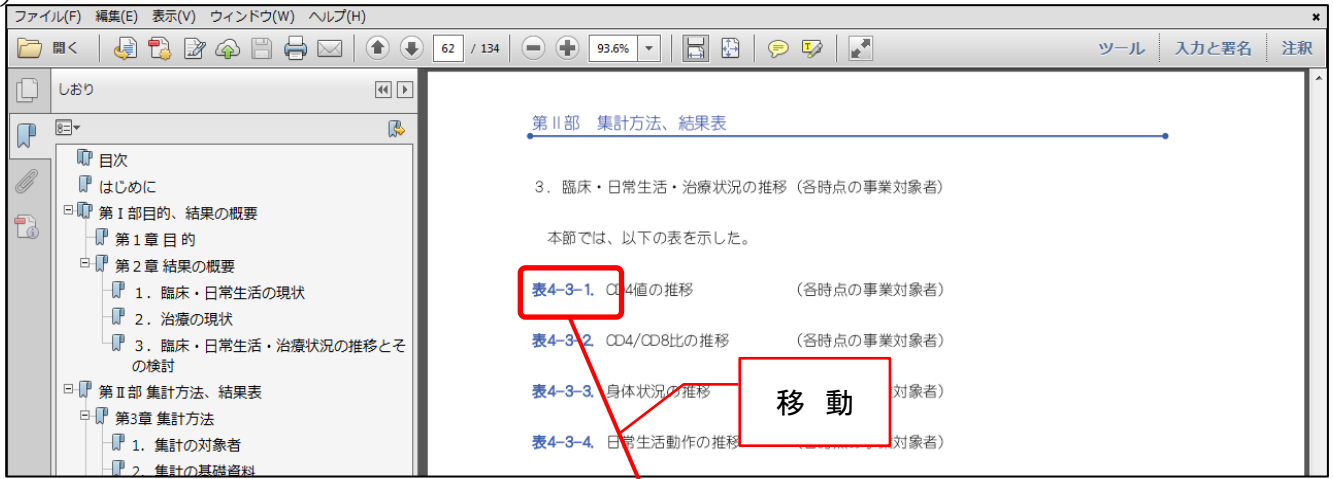


#### ④ 直前に表示していたページへ戻る機能について

「しおり」「目次」「参照ページ」「検索結果」をクリックして表示されたページから、以下の手順で直前に表示していたページに戻ることができます。



(例)



(注意)

クリックして移動した先のページを読み進んだ場合、上記の操作を行っても元のページに戻れない場合があります。  
その場合は、上記の操作を数回繰り返すと元のページまで順を追って移動いたします。

最後に

本マニュアルは、「Adobe Reader XI」を基準にして作成しております。  
ご利用になられている「Adobe Reader」のバージョンによっては、使えない機能や操作方法の違いがある場合がございますのでご了承ください。

